

# 2010年(平成22年)12月期 第2四半期累計 財務・業績 概況

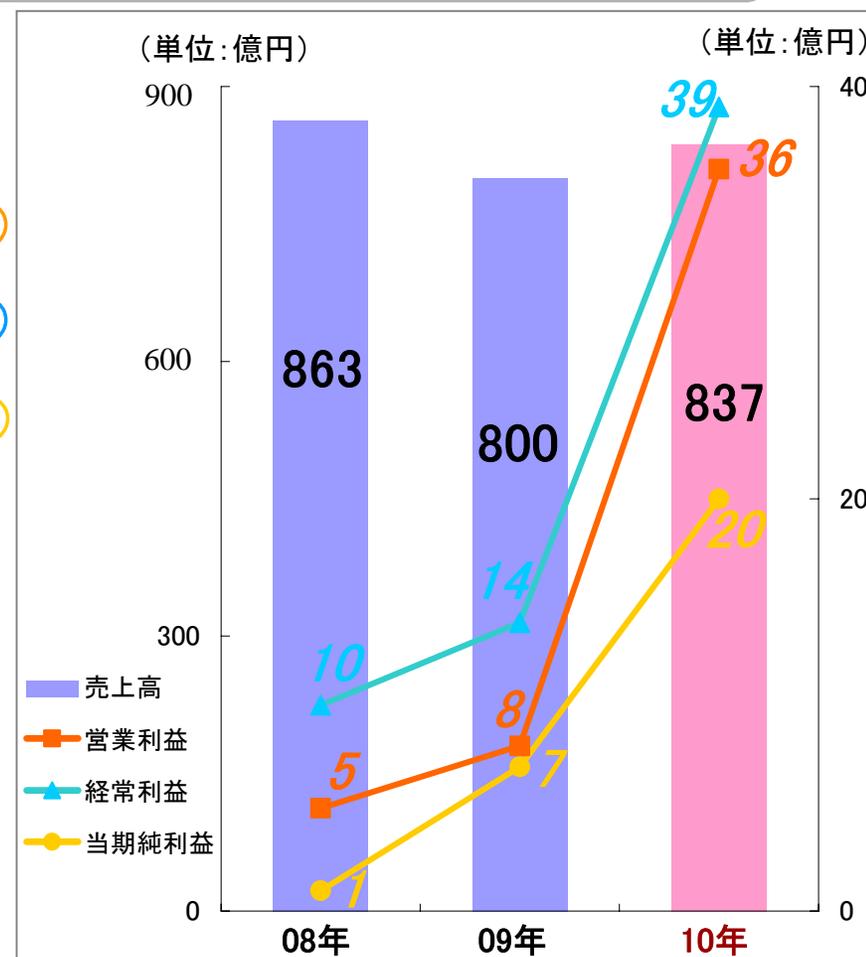
株式会社 ノーリツ

本資料に記載されております当社の将来の業績に関わる見通しにつきましては、現時点で入手可能な情報に基づき当社が独自に予測したものであり、リスクや不確定な要素を含んでおります。従いまして、見通しの達成を保証するものではありません。

2010年(平成22年)12月期 第2四半期累計 一連結経営成績一

増収基調を継続し  
第2四半期累計も増収増益

◆売上高	:	837億円	(前期比 4.7%増)
◆営業利益	:	36億円	(前期比 323.7%増)
◆経常利益	:	39億円	(前期比 174.9%増)
◆当期純利益	:	20億円	(前期比 189.7%増)



## 2010年(平成22年)12月期 第2四半期累計 一四半期別 経営成績一 (参考資料)

(単位：億円)

連結	10年(H22)12月期						
	第1四半期	対前年 増減率	第2四半期	対前年 増減率	第2四半期 累計	対前年 増減率	対公表値 計画対比 ※4月30日
売上高	444.0	4.1%	393.6	5.3%	837.6	4.7%	101.5%
営業利益	29.2	270.0%	7.2	925.5%	36.5	323.7%	135.3%
経常利益	30.9	153.3%	8.2	304.8%	39.1	174.9%	118.7%
四半期純利益	16.3	67.1%	4.1	—	20.5	189.7%	120.6%

## 2010年(平成22年)12月期 第2四半期累計 一営業利益 増減要因一 (参考資料)

(単位:億円)

連結営業利益増減要因 (前年対比)	金額	
	プラス	マイナス
台数増減や商品ミックスなど	44.7	
販売価格変動		△11.4
原材料費変動	8.5	
製造費用増減		△1.6
販管費増減		△12.4
為替影響	0.1	
合計	53.3	△25.4
営業利益増減額	27.9	

◇エコ替え促進により  
温水機器、住設システムなど  
の販売台数が増加

◆競争激化により、エコジョーズの  
売価率は悪化

◆生産台数増加により  
労務費、経費が増加

◆業績拡大に伴う、賞与などの  
費用が増加

## 2010年(平成22年)12月期 第2四半期累計 一 経常利益、純利益 増減要因一 (参考資料)

## ◆ 第2四半期累計 経常利益について

(単位:億円)

連結営業外収支増減要因 (前年対比)	金額	
	プラス	マイナス
為替差損益		△3.8
受取利息・配当金ほか	0.9	
合 計	0.9	△3.8
営業外収支増減額	△2.9	

◇ 前年同期比で、営業外収支が  
2.9億円悪化したが、  
経常利益は174.9%増加

## ◆ 第2四半期累計 純利益について

◇ 前年同期比で13億円増加

## 2010年(平成22年)12月期 第2四半期累計 —セグメント情報—

(単位: 億円)

連結	09年(H21)12月期 第2四半期累計		10年(H22)12月期 第2四半期累計			
	売上高	営業利益	売上高	対前年 増減率	営業利益	対前年 増減率
国内温水空調機器	491.5	9.6	505.7	2.9%	27.0	179.3%
海外温水機器	74.2	2.9	90.8	22.3%	5.9	103.1%
住設システム機器	86.5	△8.2	89.4	3.4%	△2.1	—
厨房機器	108.7	△0.4	108.7	0.0%	1.2	—
その他事業	39.2	4.6	42.8	9.0%	4.3	△6.0%
合計	800.3	8.6	837.6	4.7%	36.5	323.7%

## ◆国内温水空調機器

・温水機器総需要が102%(前年同期比)となり、販売台数は103.3%(前年同期比)と増加  
環境配慮型商品「エコジョーズ」「エコフィール」が増加し、売上高、営業利益ともに増加

## ◆住設システム機器

・住設システム機器の需要が回復し、システムキッチン、システムバス、洗面の販売台数が増加(前年同期比)  
システムバスの販売台数は103.1%(前年同期比)となり、売上高が増加し、営業利益も改善

## ◆厨房機器

・厨房機器総需要が102.3%と増加したが、キッチンメーカー向けの台数が落ち込み、販売台数は微増  
取り替え需要での販売が好調で、営業利益が黒字化

## 2010年(平成22年)12月期 第2四半期累計 ー四半期別 セグメント情報ー (参考資料)

(単位：億円)

連結		10年(H22)12月期						
		第1四半期	対前年 増減率	第2四半期	対前年 増減率	第2四半期 累計	対前年 増減率	対公表値 計画対比 ※4月30日
国内温水空調機器	売上高	282.4	1.7%	223.3	4.5%	505.7	2.9%	100.3%
	営業利益	24.6	126.7%	2.4	—	27.0	179.3%	135.2%
海外温水機器	売上高	44.0	35.1%	46.7	12.3%	90.8	22.3%	105.6%
	営業利益	3.7	320.0%	2.2	7.8%	5.9	103.1%	119.8%
住設システム機器	売上高	43.3	2.3%	46.1	4.4%	89.4	3.4%	102.8%
	営業利益	△ 1.6	—	△ 0.5	—	△ 2.1	—	—
厨房機器	売上高	53.8	△0.3%	54.8	0.4%	108.7	0.0%	100.7%
	営業利益	0.5	—	0.6	△1.4%	1.2	—	126.0%
その他	売上高	20.3	2.7%	22.5	15.4%	42.8	9.0%	100.7%
	営業利益	1.9	△15.1%	2.4	3.0%	4.3	△6.0%	125.1%
合計	売上高	444.0	4.1%	393.6	5.3%	837.6	4.7%	101.5%
	営業利益	29.2	270.0%	7.2	925.5%	36.5	323.7%	135.3%

## 2010年(平成22年)12月期 第2四半期累計 ー主要品群販売台数ー (参考資料)

(単位:千台)

連結		09年(H21)12月期 第2四半期累計		10年(H22)12月期 第2四半期累計				
		台数	シェア	需要	前年比	台数	前年比	シェア
温水 機器	ガス風呂釜	283	38.9%	760	104.4%	297	105.6%	39.1%
	ガス給湯器	191	35.2%	526	97.1%	188	98.7%	35.7%
	石油給湯器	61	39.4%	167	107.7%	67	109.8%	40.1%
	小計	535	37.5%	1,455	102.0%	553	103.3%	38.0%
SB(戸建)		13	4.1%	323	103.2%	13	103.1%	4.1%
SK(戸建)		5	1.9%	274	103.0%	6	119.1%	2.2%
洗面		47	6.2%	718	95.4%	54	116.1%	7.5%
ビルトインガスコンロ		165	35.7%	474	102.3%	166	100.5%	35.1%

※需要は全て当社推定

※ビルトインコンロは1口除く

## 2010年(平成22年)12月期 第2四半期累計 ー海外事業ー

(単位:億円)

連結	09年(H21)12月期 第2四半期累計		10年(H22)12月期 第2四半期累計			
	売上高	営業 利益	売上高	対前年 増減率	営業 利益	対前年 増減率
北米	28.5 (30百万US\$)	—	29.0 (32百万US\$)	1.7%	—	—
アジア	38.0	—	47.8	22.0%	—	—
その他	8.6	—	15.4	78.2%	—	—
合計	75.0	3.0	92.3	23.0%	6.8	126.6%

- ◆売上高
- ・北米:給湯器の販売台数増加により増収
  - ・中国:小売ルートでの販売台数増加により増収
  - ・その他:特に豪州での販売台数が前年同期比約2倍となり増収
- ◆営業利益
- ・高効率給湯器をはじめ、総販売台数の増加により増益



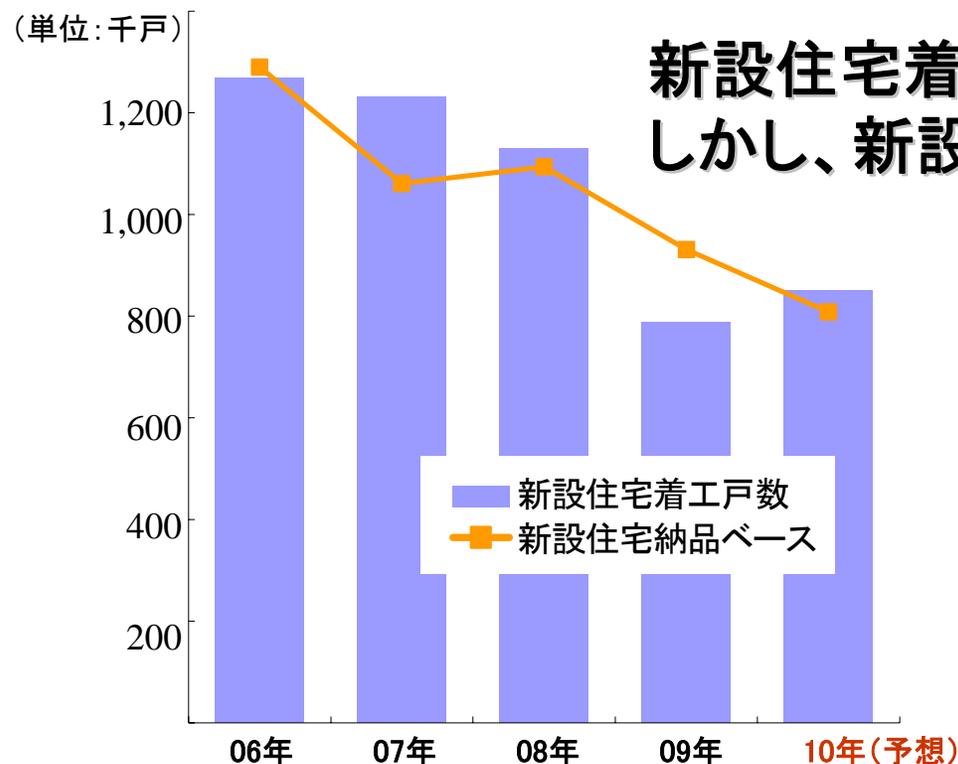
09年3月、環境保全に関する取り組みを環境大臣に約束しました。  
エコファーストの約束にのっとり、今後も環境経営を加速していきます。

# 2010年(平成22年)12月期 通期 財務・業績 予想

株式会社 ノーリツ

# 2010年(平成22年)12月期 外部環境

## 国内



**新設住宅着工戸数を上方修正  
しかし、新設住宅納品ベースは依然低調**

- 住宅版エコポイント制度など住宅関連の需要は回復基調
- ガス業界、ガス機器業界においてエコジョーズ標準化加速
- × 素材の高騰(鉄、SUS)

## 北米

- 減税措置打ち切りの反動で住宅市場に先行き不透明感増
- 家庭用高効率給湯器がエナジースター対象機種に追加

## 中国

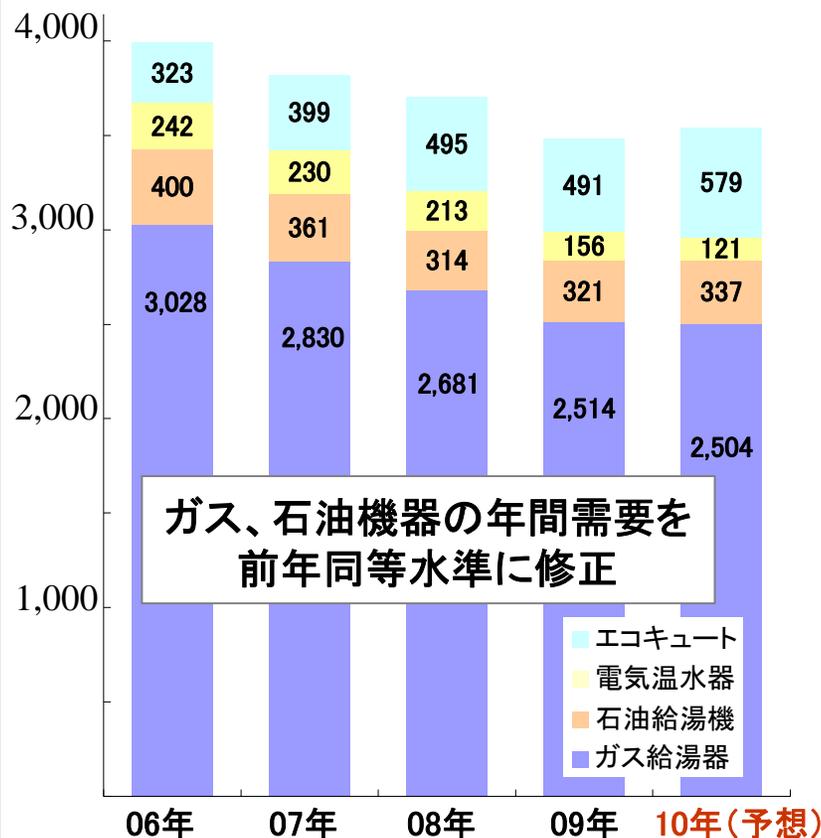
- 不動産価格抑制策による新築需要の減少
- 法規制:省エネ機器プログラム

# 2010年(平成22年)12月期 外部環境

## 「エコ替え」の促進をさらに加速する

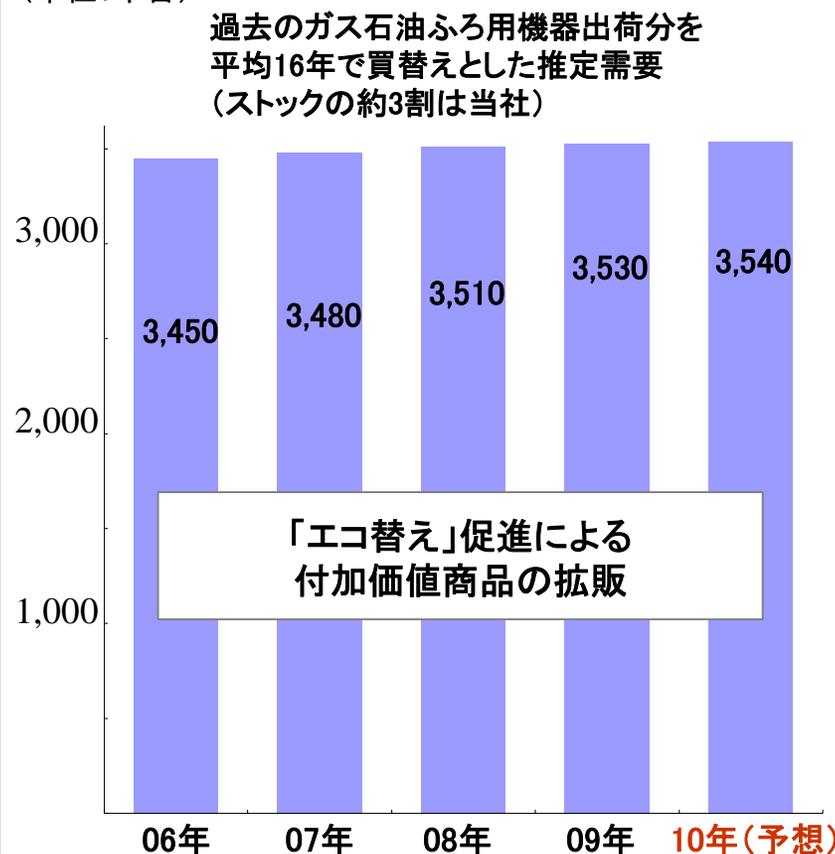
### 国内温水機器 総需要

(単位:千台)



### 既設を16年で買替えた場合

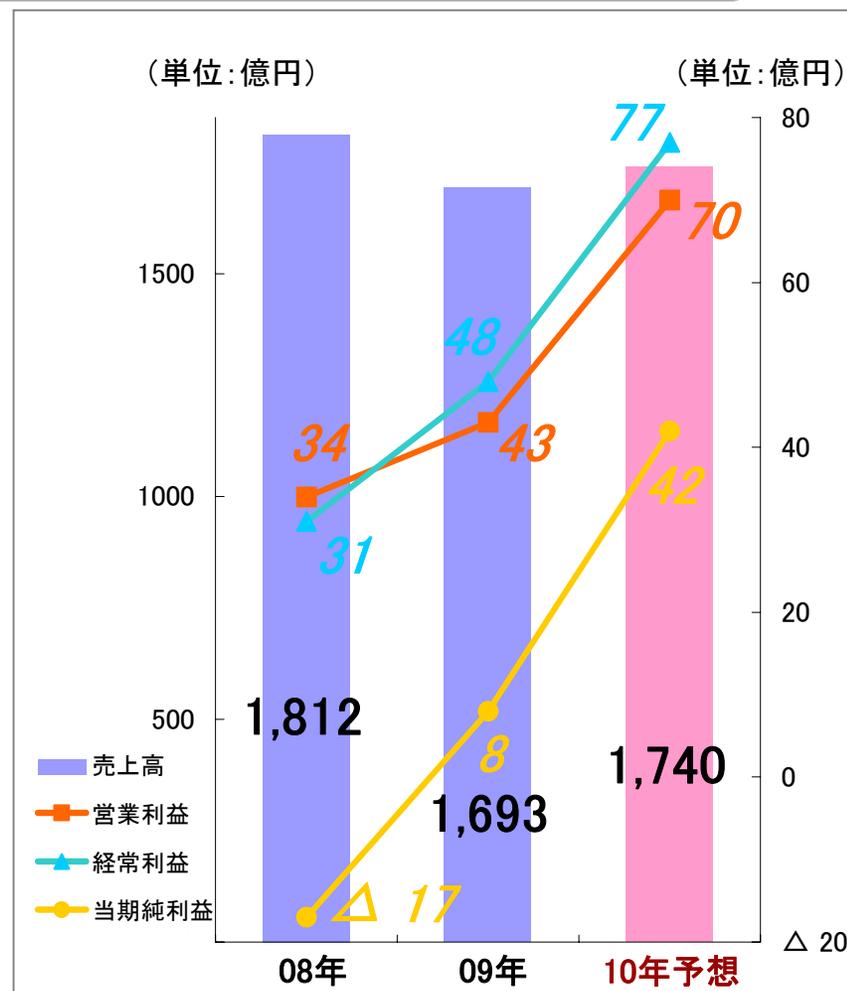
(単位:千台)



2010年(平成22年)12月期 通期 一連結経営成績 予想一

経営環境は依然厳しいが  
「成長に向けた仕掛け」を進める

- ◆売上高 : 1740億円 (前期比 2.7%増)
- ◆営業利益 : 70億円 (前期比 60.2%増)
- ◆経常利益 : 77億円 (前期比 59.7%増)
- ◆当期純利益 : 42億円 (前期比 400.7%増)



## 2010年(平成22年)12月期 通期 一営業利益 増減要因 予想一

(参考資料)

(単位:億円)

連結営業利益増減要因 (前年対比)	計画 ※4月30日		修正計画	
	プラス	マイナス	プラス	マイナス
台数増減や商品ミックスなど	15.1		53.3	
販売価格変動		△10.0		△19.4
原材料費変動	5.9		12.0	
製造費用増減	4.9			△5.3
販管費増減	0.7			△13.9
為替影響		△0.3		△0.4
合計	26.6	△10.3	65.3	△39.0
営業利益増減額	16.3		26.3	

## 2010年(平成22年)12月期 通期 ーセグメント情報 予想ー

(単位:億円)

連結	09年(H21)12月期		10年(H22)12月期					
	通期		通期					
	売上高	営業利益	売上高			営業利益		
			公表値 ※4月30日	修正 公表値	対前年 増減率	公表値 ※4月30日	修正 公表値	対前年 増減率
国内温水空調機器	1,031.8	34.6	1,025.5	1,051.0	1.9%	36.0	48.0	38.6%
海外温水機器	151.2	2.8	171.5	169.0	11.7%	8.5	7.0	144.8%
住設システム機器	178.7	△13.8	190.0	182.0	1.8%	△ 3.0	△ 3.0	—
厨房機器	250.4	9.5	253.0	250.0	△0.1%	11.0	9.5	△0.8%
その他	81.2	10.4	85.0	88.0	8.4%	7.5	8.5	△18.9%
合計	1,693.5	43.6	1,725.0	1,740.0	2.7%	60.0	70.0	60.2%

## 2010年(平成22年)12月期 通期 一主要品群販売台数 予想一 (参考資料)

(単位:千台)

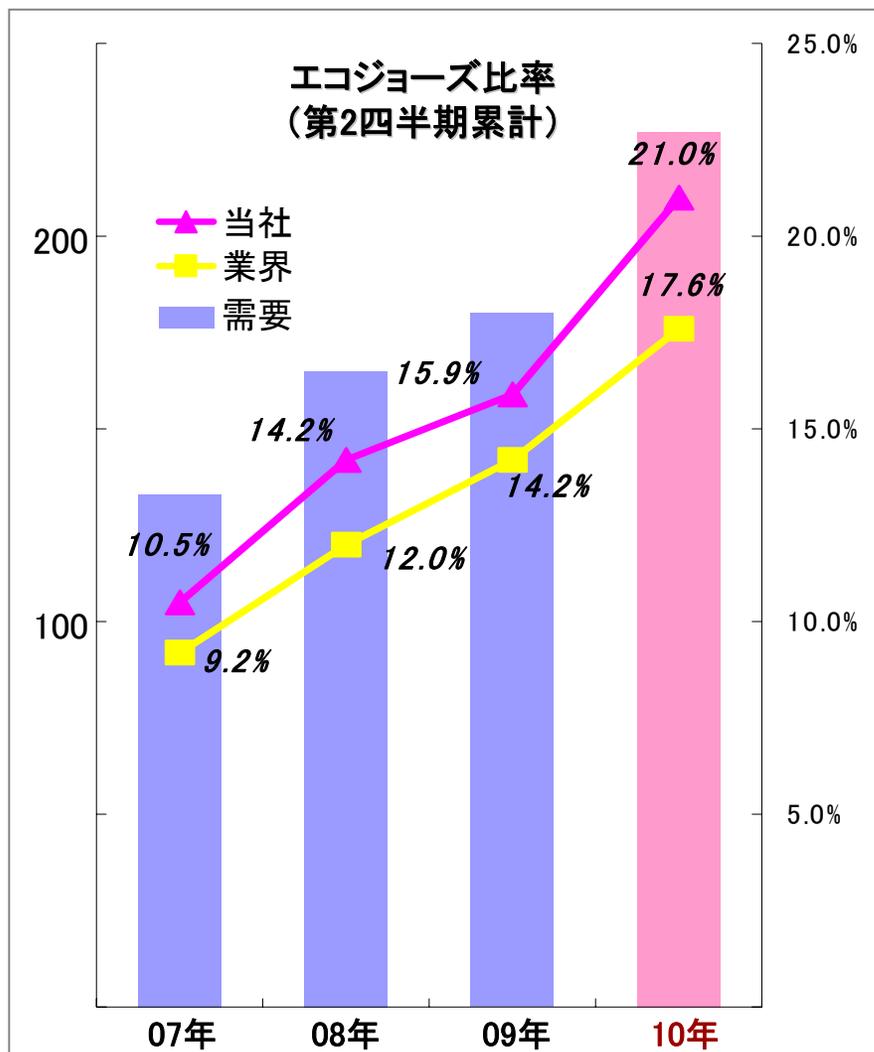
連結		09年(H21)12月期 通期		10年(H22)12月期 通期				
		台数	シェア	需要	前年比	台数	前年比	シェア
温水 機器	ガス風呂釜	579	39.3%	1,495	101.3%	595	102.8%	39.8%
	ガス給湯器	360	34.8%	1,009	97.2%	359	99.6%	35.6%
	石油給湯器	124	38.8%	337	104.8%	137	109.2%	40.6%
	小計	1,065	37.6%	2,842	100.2%	1,092	102.5%	38.4%
SB(戸建)		26	4.0%	679	103.5%	28	106.6%	4.1%
SK(戸建)		10	1.9%	577	104.0%	12	117.8%	2.2%
洗面		97	6.4%	1,476	96.7%	112	115.5%	7.6%
ビルトインガスコンロ		358	34.8%	1,022	102.2%	375	104.7%	36.6%

※需要は全て当社推定

※ビルトインコンロは1口除く

# 「成長に向けた仕掛け」 —国内温水機器事業(環境・省エネ)—

## エコジョーズ比率23.5%を目指す



### ◆エコジョーズ比率の拡大

●新商品によるエコ替え促進で  
第2四半期累計のエコジョーズ比率が  
5.1ポイント(前年同期比)増加。  
通期で当初計画の23.5%を目指す

### ●ストックを対象にした「エコ替え」推進

- ・「ありがとう&エコ替えキャンペーン」7月開始
- ・アパート物件への提案強化



### 《業界動向》

- ・ガス業界：15年エコジョーズ標準化を宣言
- ・ガス機器メーカー：「エコジョーズ化宣言2013」を表明

# 「成長に向けた仕掛け」 —国内温水機器事業(環境・新エネ)—

## 新エネルギー分野の基盤構築を進める

### ◆太陽熱エネルギーの高度利用(太陽熱温水器/太陽光発電)

#### ●太陽熱温水器

- ・環境省の「家庭用太陽熱利用システム普及加速化事業」5月開始
- ・ビジネスパートナー761店と同事業を活用した取り組みを深耕
- ・同事業活用により最大700台の販売を予定し、認定工事店の整備を加速

【家庭用太陽熱利用システム普及加速化事業とは】

- ・熱源器とソーラーが一体化したVFシリーズが対象機種
- ・機器、工事費の半額(上限60万円)が補助金として支給



#### ●太陽光発電

- ・三菱製太陽光発電を用いて販売体制の整備を深耕
- ・グループ子会社の施工業務を統合し、施工体制を強化
- ・11年の内製化開始を目指し、ラインの設備、設計を完了



### ◆新エネルギーの取り組み

#### ●燃料電池

- ・貯湯ユニット生産技術などを活かし他社との提携を強化

# 「成長に向けた仕掛け」－住設システム事業－

## 住設システム商品の販売増量を図る

### ◆台数増量と商品ミックスの改善

- 重点工作対象店との協業強化による台数増加
- 既設比率の向上による、商品ミックス改善
- 住設システム専任体制のさらなる浸透

《独自性をもち、熱源機器とセットでさらに付加価値を生む商品提案》

#### (システムキッチン)



Estudio  
PREMIERE

Beste<sup>o</sup>  
システムキッチン(ベスト)

ジャストリフォーム  
キッチン



#### (システムバス)

節水浴槽



おそうじ浴槽



Clesse  
—クリーン＆エコ—

増築なしで  
拡がるお風呂



ひろがる  
お風呂は  
ノーリツ

yupatio  
Riz

Grasio

# 「成長に向けた仕掛け」－厨房事業－

## 量販ルートへ上陸する

### ◆新製品開発と新規ルートの開拓

#### ●新製品の開発

- ・量販ルート向けテーブルコンロ8月発売

#### ●新規ルートの開拓

- ・家電量販店、ホームセンターなどへの上陸

8月1日発売

“ピッタリフィットシリーズ”



・流し台になじむスッキリとしたデザイン



・普及価格帯でも優れたお手入れ性



## 2010年(平成22年)12月期 通期 ー海外事業 予想ー

## 北米、中国での展開を進める

(単位:億円)

連結	09年(H21)12月期 通期		10年(H22)12月期 通期			
	売上高	営業利益	売上高	対前年増減率	営業利益	対前年増減率
北米	53.3 (58百万US\$)	—	59.0 (64百万US\$)	9.2%	—	—
アジア	83.0	—	92.9	11.9%	—	—
その他	17.0	—	21.0	23.5%	—	—
合計	155.0	3.8	172.9	11.5%	8.7	128.9%

# 「成長に向けた仕掛け」－海外事業 北米－

## 高効率給湯器(コンデンシング)を拡販する

### ◆安全・安心、環境・省エネ商品の拡大

#### ●高効率給湯器の拡販

- ・エネジースター対象機種が増加し  
販売台数が前年同期比71%増

#### ●環境配慮型商品の開発

- ・12年施行の法規制(低NOx)対応商品8月発売

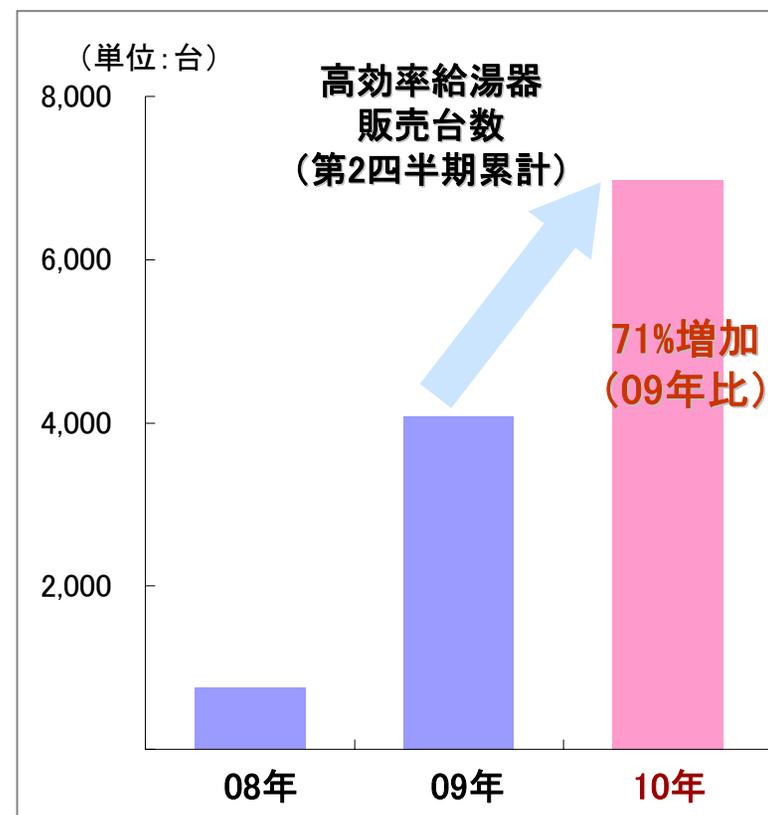
### ◆新規エリアの開拓

#### ●カナダの販売体制強化

- ・カナダでの販売台数が前年同期比30%増

### ◆新規ルートの開拓

#### ●業務用ルートへの参入



# 「成長に向けた仕掛け」 — 海外事業 中国 —

## 重点都市での拡販を図る

### ◆新規エリアの開拓

- 重点都市エリアでの拡販

- ・販売台数が第2四半期累計で前年同期比48%増

### ◆新規ルートの開拓と専売店の増加

- 専売店数100店化

- ・専売店数を25店増加し、総数69店

### ◆高付加価値商品の拡大

- 10号以上、比例制御化商品の拡販

### ◆生産効率向上と原価低減

- 主要部品の内製付加価値拡大と品質向上

- 部品の現地調達推進



中国製 高効率  
(コンデンシング)給湯器5月発売

## 2010年(平成22年)12月期 通期 一設備投資額・減価償却費・研究開発費 予想一 (参考資料)

(単位:億円)

連結	設備投資額			減価償却費			研究開発費		
	09年 (H21) 12月期	10年 (H22) 12月期	第2 四半期 累計	09年 (H21) 12月期	10年 (H22) 12月期	第2 四半期 累計	09年 (H21) 12月期	10年 (H22) 12月期	第2 四半期 累計
国内	40.9	53.9	20.7	55.6	56.7	23.0	—	—	—
海外	4.6	4.6	1.6	4.6	4.6	2.4			
合計	45.5	58.0	22.4	60.2	61.0	25.6	51.7	51.0	25.8
内金型投資	17.0	19.0	9.4						